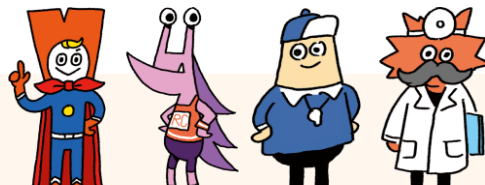


1 クリーンスポーツ教育プログラムの目的

「クリーンスポーツ研修会」は、アスリート及びそのサポートスタッフが、スポーツの価値に基づきアンチ・ドーピングを学習する「クリーンスポーツ教育プログラム」の一環です。

「クリーンスポーツ教育プログラム」は、単にアスリートが「違反をしない」「ルールを守る」という規範的な行動の重要性を学ぶことだけを目指しているわけではありません。クリーンでフェアなスポーツの意義を、自分自身の考え方、そして人や社会との関係性の中でも理解し、価値観を養っていくことで、ライフスキルそして人間性を向上させ続けることを目指しています。



自らの価値観・課題を認識し、知識・自身を批判的に見直す

関係性の中で自身で判断・行動
行動の習慣化

ドーピングに巻き込まれない、意図しない規則違反をしない
Clean Sport Behavior

人生における価値観・ライフスキルを養い
人間性を向上

メッセンジャー アンバサダー
Clean Sport Creator

社会的なインフルエンサー・発信者を育てる
スポーツの価値を通して、未来の社会を創る
グローバルリーダーを育てる

スポーツ・社会のリーダー
Clean Sport Leader

スポーツの価値を通して、より良い社会、
未来を創る

責任ある意思決定

クリーンスポーツ教育プログラムは、スポーツの価値やフェアネスを創るロールモデル、そしてスポーツの価値を通して、社会やグローバルなリーダーの育成を目指しています。

2 国際基準で求められる教育内容

2021年に「教育に関する国際基準（ISE）」が発効され、スポーツの価値を基盤としたアンチ・ドーピング教育の枠組みが国際基準で定められました。

ISEでは、アスリート及びそのサポートスタッフに対し、スポーツの価値やインテグリティに基づく**11トピックス**の教育が要請されています。

本研修会スライドでは、それらの11トピックスを7つのカテゴリーに区分し、アスリートの権利や責務を①認識し、②理解を深め、学習者自身が正しい情報に基づき適切に③意思決定・行動できるようになっていくといった**三段階**の教育目標が設定されています。

※7つのカテゴリーは、『クリーンスポーツ・アスリートサイト（<https://www.realchampion.jp/>）』や『クリーンアスリートガイド』と共通です。研修会の実施にあたり、より詳しい情報の参照や、学習者の復習にご活用ください。

11 トピックスにもとづく 7つのカテゴリー



◆ 教育の相乗効果を高める本スライドと各マテリアルとの連動性 ◆



3 スライドの活用方法：研修会実施までの4つの手順

その1 スライドの使用申請

「クリーンスポーツ研修会スライド」は、各JADA加盟団体の教育担当者が提出している教育年間計画における、承認Educatorによるセッション（対面教育）での使用のみが申請対象となります。本スライドは承認Educatorのみが申請できます。以下を確認の上、「承認Educator用ページ」の＜申請フォーム＞よりご申請ください。

- ✓ 使用の2週間前までにご申請ください。申請内容をJADAにて確認した後、セッションでお使いいただけるスライドデータ・配布資料データをメールで送付します。
- ✓ 申請された内容を確認した後データを提供します。教育年間計画への記載が確認できない場合や使用の目的が本スライドの目的と合致しない場合、スライドデータの提供をお断りすることがあります。
- ✓ 最新のルールや情報にもとづきセッションを実施できるよう、本スライド及び本解説書は、定期的に更新されます。常に最新版をご使用ください。
- ✓ 申請内容とは別の研修会で本スライドを使用される場合は、必ず、申請フォームから再度申請してください。
- ✓ 承認Educatorの実践状況モニタリングの一環として、JADAが実践オブザーブに行く場合があります。その際は、所属団体の教育担当者とJADAが調整の上、セッションを実施する承認Educatorにお知らせします。オブザーブに行く場合は、計画設計シートを事前に提出いただきます。
- ✓ JADAによる実践オブザーブ、フィードバックをご自身が希望される場合は、申請フォームからその旨をお知らせください。実際にオブザーブに伺うかどうかについてはJADAにて判断いたします。

その2 セッション実施に向けた準備

＜計画設計シートを活用したセッションの事前準備＞

承認Educatorは、計画設計が求められます。「計画設計シート」を活用してセッションを実施する際の前提条件の確認を行いながら、セッションの具体的な内容を必ず設計しましょう。設計をすることで、自身のセッションの計画を可視化し、シミュレーションができ、学習者の理解度などの状況に応じて、実践中に計画の修正を柔軟に対応できるようになります。計画設計シートを通して、実践後の省察において明示的に振り返りをし、次回に向けた改善につなげることができます。

セッションの設計については、承認研修で配布している「クリーンスポーツEducatorハンドブック（P27～66）」を参照ください。

セッションの事前準備の流れについては、次ページを参照ください。

セッション事前準備（設計～シミュレーション）

01

前提条件の確認

教育年間計画に記載の、
対面教育の目的、対象となる教育ターゲット、参加人数、開催日時・場所を確認する

02

トピックス・ 教育目標の設定

重点をおく11トピックスと、対面教育を通して達成したい学習目標を設定する

03

セッションの流れ（ はじめ～なか～おわり）を組み立てる

教育目標を達成するためにセッションで伝えたいキーポイントは何かを決める。
発問と活動として何を実施するか具体案を決める

04

最新情報の確認（リ サーチ）

IFからの情報、クリーンアスリートサイトなどを確認し最新の情報を検索

05

スライドやその他使 用するマテリアルの 組み立て

必要なスライドの抽出。順番の並べ替えなど、設計シートでのセッションの流れに沿ってスライドを組み立てる。動画などその他のマテリアルの使用についても検討する

06

セッションの流れを シミュレーション

時間配分や、セッションの流れが適切かどうかを確認。また、実際に声に出して流れを確認するなど、自身の実践の事前リハーサルも行うとさらに良い

その3

「クリーンスポーツ・アスリートサイト」と 研修会スライドを連動させて詳細を確認

スライドは、「クリーンスポーツ・アスリートサイト」と「クリーンアスリートガイド」に基づき構成しています。また、承認Educatorには次の2種類のスライドを提供しています。

◆ クリーンスポーツ研修スライド（基本）

◆ アクティブラーニング用スライド

以下の表を参照し、セッションの学習者及び学習目標に応じて、使用するアクティブラーニング用スライドを選定し、研修スライド（基本）に差し込むことや、その他マテリアルと連動し実践ください。

	スライド 番号	クリーンスポーツ研修スライド（基本）内容	所要 時間 (目安)	発問例 Q = 「アクティブラーニング用スライドあり」
STEP 1	◆ 導入			
	P2～P7 	◆ スポーツの価値とクリーンスポーツの意義について考える ◆ 本日の研修の目的を明確にする	10分	Q アクティビティ①「スポーツの価値を感じるシーンを探そう！」 Q アクティビティ②「クリーンスポーツは誰が作ることができるか考えてみよう」
STEP 2	◆ クリーンスポーツのために必要なルールを学ぶ			
	P9～P14 	◆ アンチ・ドーピングの目的を知る ◆ アスリートやサポートスタッフの権利と責務を理解する ◆ アスリートの厳格責任を正しく理解する	7分	Q アクティビティ④「あなたのアクションでスポーツの未来を守ろう！」 Q アクティビティ⑩「シナリオからクリーンスポーツ行動を考える」
	P15～P20 	◆ 11のアンチ・ドーピング規則違反の内容と、アスリートとサポートスタッフに適用される項目があることを知る	5分	Q どのような行為がアンチ・ドーピング規則違反となる？ Q アクティビティ⑪「シナリオからクリーンスポーツ行動を考える」
	P21～P24 	◆ ドーピングが自身や周囲に及ぼす影響について理解する ◆ 違反の有無や制裁措置が決定するまでの手続きを知る	7分	Q ドーピングによって、アスリートや自分の競技、社会にどのような影響があるか考えてみよう Q アクティビティ⑫「シナリオからクリーンスポーツ行動を考える」
	P25～P39 	◆ 禁止表の存在と禁止物質・方法の調べ方を知る ◆ 薬を使う・治療を受ける前に必要な行動を理解する ◆ 禁止物質・方法を治療で使用しなければならない場合、自身のアスリート・カテゴリーにもとづき、認められている権利・申請方法を理解する ◆ サプリメントのリスクを理解したうえで自身で必要性を判断する	15分	Q アクティビティ⑨「アスリートライフとクリーンスポーツ行動を考える」 アスリートにサプリメントは必要？ サプリメント使用のリスクを説明してみよう
	P40～P47 	◆ ドーピング検査の意義と概要を理解する ◆ ドーピング検査時のアスリートの権利と責務を理解する	5分	Q なぜ「ドーピング検査」が必要？ Q 18歳未満のアスリートを守るために、どんなルールがある？
	P48～P49 	◆ クリーンスポーツを守るための手段とアスリートの権利を知る	3分	Q 試合前、ライバルの怪しい行動を見てしまった！あなたならどうする？
STEP 3	◆ まとめ			
	P51～P53	◆ STEP1～2の内容を踏まえ、クリーンスポーツのために必要な行動を理解する	8分	Q これまでの学習内容を踏まえ、クリーンスポーツのために必要な行動を宣言してみよう！

合計60分

その4 フィードバック（省察）の実施

セッションを実践後は、**学習者はフィードバックフォームへの入力を、講師の方はセルフリフレクションフォームへの入力**を行い、必ずセッションの省察を行いましょう。（セルフリフレクションフォームは、教育年間計画の報告にも使用いただけます。）

学習者に対し、ワークシート及びスライド最終ページで提示しているフィードバックフォームより回答するよう、セッション終了時にご案内ください。

尚、フィードバックフォームへの回答内容は、学習者の氏名は伏せた上で、承認Educatorと教育担当者へ共有いたします。

※個人情報とは、学習者の所属先である競技団体及びスポーツ関連団体（日本スポーツ振興センター、日本オリンピック委員会、日本障がい者スポーツ協会、日本スポーツ協会等）に対し、学習者の氏名や受講履歴などの情報を提供するなど、クリーンスポーツ教育推進の目的にのみJADAが利用します。

▼ 学習者向け



フィードバックフォームはこちらから
回答項目：学習者情報、研修内容に対する
フィードバック、講師に対する評価

<https://forms.office.com/r/jGXQGU50hV>

▼ 承認Educator向け



セルフリフレクションフォームはこちらから
回答項目：講師情報、研修内容に対する評価、
質問など

<https://forms.office.com/r/qnV1nyHxnB>

承認Educatorとしての役割

- ◆ Code及び教育に関する国際基準（ISE）で求められる対面教育を実践するために
承認Educatorは、スポーツの価値を通して、未来の社会を創ることに貢献できる人材を育成し、クリーンでフェアなスポーツを通したより良いスポーツ、そして社会づくりを担うキーパーソンです。
クリーンスポーツ研修会やワークショップなどの「対面教育」は、教育ターゲット（アスリート、サポートスタッフなど）が、知識の獲得のみならず、知識を基に自らが行動に移すための方策や、他者との意見交換を通じて、考え方や価値観を深める・広げることができるといった人間性を向上するための重要な学びの場となります。学習者の思考力、判断力、表現力を育んでいくためにも、承認Educatorと学習者間、また学習者同士の会話を含めた双方向性を意識し、アクティブラーニングを取り入れた、学習者が学習意欲を高めることができる対面教育を実践しましょう。
- ◆ 学習者へ最新で正しい情報を伝えていただくため、計画設計時（セッション実施前）には、必ず最新のルール、情報を確認の上、セッションを実施してください。
- ◆ 不明な点や学習者からの質問で回答できないものがあれば、その場で即答せず、JADAにご確認ください。
- ◆ よくあるご質問とその回答については、以下よりご確認ください。
<https://www.playtruejapan.org/faq/>
- ◆ 承認Educatorとしての立場：伝え方や振る舞いについての注意点
別紙「承認Educatorとしての立場：伝え方や振る舞いについての注意点」をご確認ください。

注意事項

- 本スライドは、世界アンチ・ドーピング規程に基づくクリーンでフェアなスポーツの促進を目的に制作したもので、世界アンチ・ドーピング規程を定義したり法的拘束力を持つものではありません。
- 本スライドのデータの改変や転載・転用は固く禁じます。これらに含まれる一切の著作権等は、公益財団法人日本アンチ・ドーピング機構に帰属します。

クリーンスポーツEducatorとしての行動・振る舞い 注意点

承認Educatorは、学習者のスポーツの価値の観点やクリーンスポーツ行動に対して、良い影響力を与える存在です。
承認Educatorとしてアスリートやサポートスタッフと接する際、また対面教育において話をする際には、伝え方や振る舞いについては、承認Educatorとしての立場を認識し意識するようにしましょう。

区分	NG行為	理由（解説）
個人情報の取り扱い	他のアスリートやサポートスタッフが いる前で、アスリートに対していつ ドーピング検査を受けたか質問する	ドーピング検査をいつ受けたか、受けたことがあるかについては個人情報となるため、クリーンスポーツEducatorからアスリートへ聞くことは個人情報の取り扱いに抵触する恐れがあります。「この中には、ドーピング検査を受けたことがある方もいらっしゃるかもしれません」といった、不特定/推察としての言及であれば問題ありません。
	他のアスリートやサポートスタッフが いる前で、アスリートに対してTUEの 申請をしているか質問する	TUEの申請をしているか、TUEが付与されているかについては個人情報となるため、クリーンスポーツEducatorからアスリートへ聞くことは個人情報の取り扱いに抵触する恐れがあります。また、アスリートによってはチームメイトやコーチなどに自身がケガや病気の治療中であることを知られたくないというアスリートもいるため注意が必要です。当該アスリートの了解を得ていたとしても、その情報を受けるアスリートやサポートスタッフからアンチ・ドーピングにおける個人情報の取扱いについて不安を与える可能性がある言動は適切ではありません。「この中には、TUEの申請をしたことがある方もいらっしゃるかもしれません」といった不特定/推察としての言及であれば問題ありません。
	他のアスリートやサポートスタッフが いる前で、アスリートに対して何の薬 やサプリメントを摂取しているか質問 する	薬やサプリメントの摂取については個人情報となるため、クリーンスポーツEducatorからアスリートへ聞くことは個人情報の取り扱いに抵触する恐れがあります。また、アスリートによっては病気やケガの治療や健康状態などをチームメイトやコーチなどに知られたくないというアスリートもいるため注意が必要です。
ドーピング検査に 関する説明	（過去を含み）いつ、どの大会で 検査が行われるか（行われたか） 伝えること	いつ、どの大会で検査が行われるかについてはJADAでは一切公表していません。憶測や過去の実績をベースとした情報発信はアスリートやサポートスタッフへの誤解・誤認を生む可能性がありますのでお控えください。 ISTIでは、事前通告無しの検査（No Advance Notice Testing）が求められています。 ※JADAコーポレートサイトで毎年度公開する「国内最高レベルの競技大会」は、「ドーピング検査の対象競技会」ではありません。
居場所情報に 関する説明	特定のアスリートの居場所情報 （ADAMSの入力画面）を見せながら 入力方法を説明すること	居場所情報は個人情報になるため、特定のアスリートの居場所情報（ADAMSの入力画面）を第三者に見せることは個人情報の取り扱いに抵触する恐れがあります。 ※参照：プライバシー及び個人情報の保護に関する国際基準（ISPPPI）
薬の摂取における 注意点の説明①	禁止物質が含まれるものの具体例とし て、市販の商品名やパッケージ写真を 掲載し説明すること	特定の商品を示して注意喚起を行うことは、「この商品だけ注意していれば大丈夫」といったアスリートの誤解を生む可能性があります。また、場合によっては製造メーカーから風評被害等で訴訟リスクもあるため、十分ご注意ください。
	漢方の注意点について、市販の商品名 やパッケージ写真を掲載し説明するこ と	特定の商品を示して注意喚起を行うことは、「この商品だけ注意していれば大丈夫」といったアスリートの誤解を生む可能性があります。また、場合によっては製造メーカーから風評被害等で訴訟されるリスクもあるため、十分ご注意ください。

区分	NG行為	理由（解説）
薬の摂取における注意点の説明②	日本スポーツ協会や日本薬剤師会等が公開している「使用可能薬リスト」を活用ツールとして推奨すること	JADAでは、使用可能薬リストは作成していません。 アンチ・ドーピングのルールでは、「禁止表国際基準」で定められているのは「禁止物質」であり、商品ではありません。JSPOや日薬などが独自に作成、公開している使用可能薬リストはJADAが内容を確認し、保証しているものではありません。 JADAでは含まれる物質が禁止表に含まれているか否かを検索することが可能な「Global DRO」の活用を推奨しています。The Global Drug Reference Online (Global DRO)はグローバルな検索サイトで、WADAの現行の禁止表国際基準 (Prohibited List) に基づき、アスリートやサポートスタッフが禁止物質のステータスを確認することができ、イギリス、カナダ、アメリカ、スイス、オーストラリア、ニュージーランド、日本で販売されている商品名での検索が可能です。Global DROはイギリス、カナダ、アメリカ、スイス、オーストラリア、ニュージーランド、日本のアンチ・ドーピング機関が公式ライセンスを保有し管理、運営しています。 Global DROには、栄養補助食品に関する情報又は栄養補助食品に適用される情報は含まれていません。 また、Global DROの情報は定期的に更新されていますが、市販されている全ての商品を検索できるわけではありませんので、検索結果についてスポーツファーマシストなどの専門家に確認し、ダブルチェックすることを推奨します。 アスリートは自身の体に摂り入れる物に責任を持つという厳格責任があります。厳格責任を果たすためにもGlobal DROでの検索、検索内容を薬の専門家へ相談・確認、検索内容の履歴を保管することをクリーンスポーツEducatorが働きかけることが重要です。
サプリメントの摂取における注意点の説明	サプリメントは「認証マークのついていないものやパッチテスト済みのものを使えば安全だ」という説明をすること	サプリメントは全ての成分を確認することが不可能なため、認証マークやパッチテスト済みであっても100%安全とは保証できません。
	サプリメントの確認方法として、Informed Choiceなどの認証サービスや、アンチ・ドーピング機関が公認していないサプリメントの確認サイト/アプリなどを紹介すること（USADAのSupplement411やSIAのサプリメントチェックアプリはOK?）	サプリメントは全ての成分を確認することが不可能なため、認証マークやパッチテスト済みであっても100%安全とは保証できません。
	過去の違反事例等から、禁止物質を含んでいたことが確認されたことのある商品名やパッケージ写真を掲載し説明すること	特定の商品を提示して注意喚起を行うことは、「この商品だけ注意していれば大丈夫」といったアスリートの誤解を生む可能性があります。また、場合によっては製造メーカーから風評被害等で訴訟されるリスクもあるため、十分ご注意ください。
承認Educatorとして	中身の入った薬のパッケージやサプリメントのパッケージを持参しGlobal DROの検索練習等で使用すること	万が一アスリートが間違えてパッケージを持ち帰ってしまった場合や、中身に触れてしまいそれが誤って体内に入ってしまうことがあった場合のリスクには十分注意が必要です。検索練習で実施に市販されている商品名を例示することは問題ありませんが、パッケージは必ず空き箱を利用しましょう。
	自身が持参したお菓子や飲み物をアスリートに与えること	アスリートに対して「自身の体に摂り入れる物には注意」と伝える立場のEducatorが、教育目的であったとしても、飲食物など、体内に摂り込まれる可能性があるものを与えることは立場として不適切な行動です。アスリートのリスクマネジメントを考慮した行動をとりましょう。